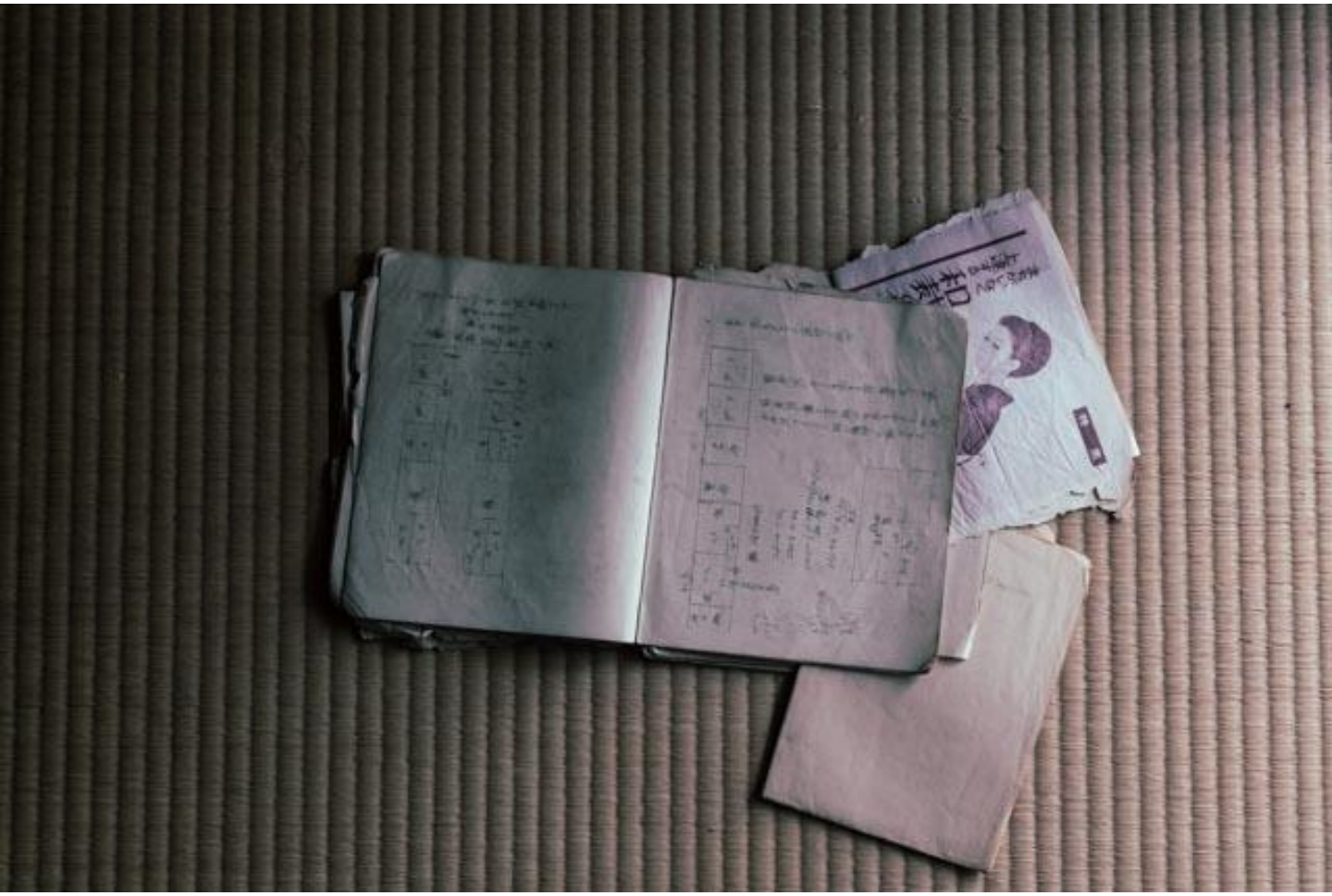
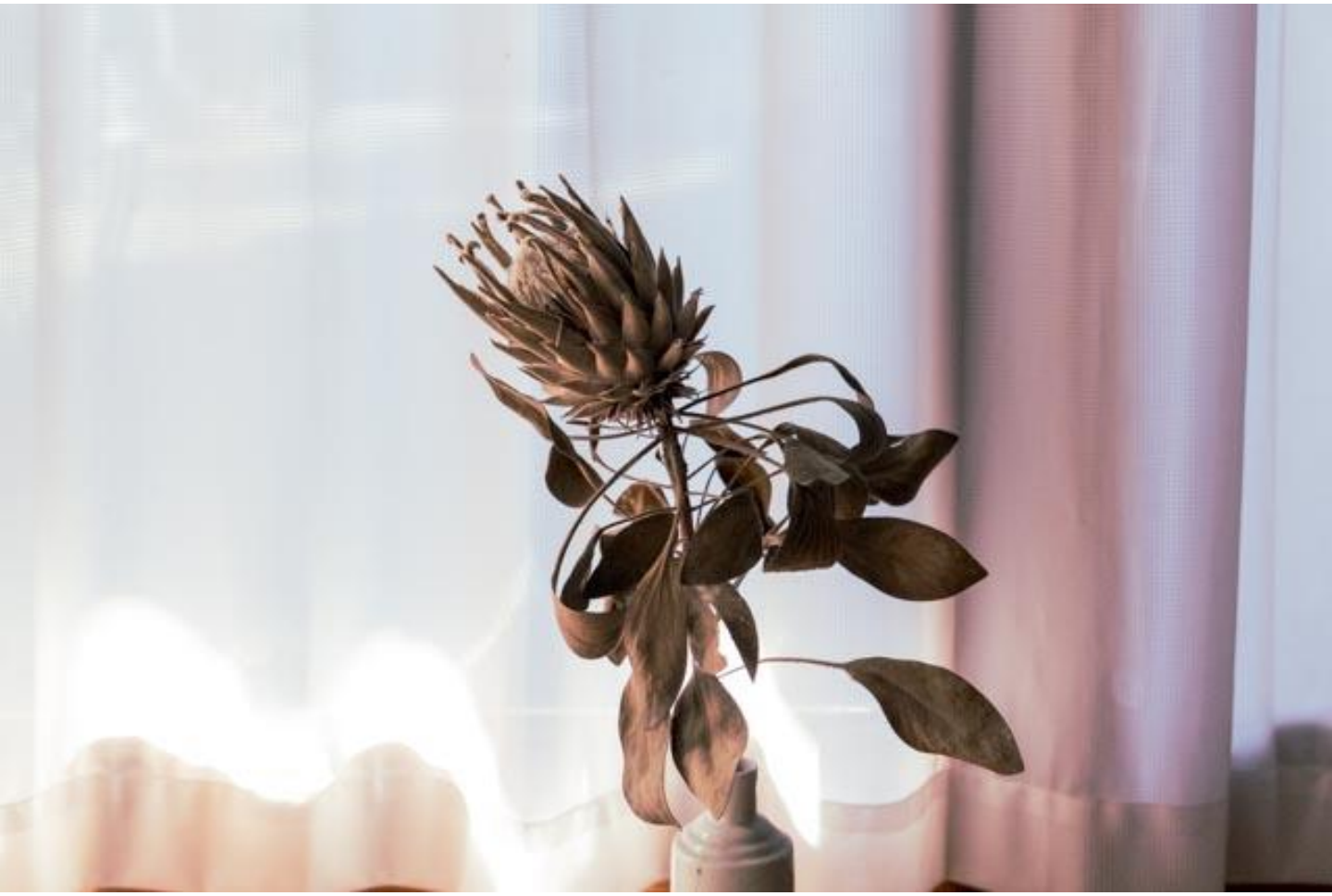
家の時間

林　歩（Ayumi Hayashi）

　代々続く農村地区の長男の嫁となり２０数年が経つ。夫の両親と同居し、なにひとつ満足にできない私は、生活すべてにおいて厳しく教え込まれた。文化の違う家に私が馴染み、家の人間として認められるまでずいぶんと時間がかかった。

　私は、義理の両親へ葛藤と受容を繰り返しながらふたりの死を迎えた。その後、遺品整理をしながら家の時間を振り返るようになった。ほとんどの遺品は整理したが、いくつか触れられない物がある。それには、私の知りえない苦楽が封じ込まれている。貧苦をいとわず身を粉にして働き、子の成長を第一に喜ぶ人たちの時間が残されている。義理の両親もそんな人たちだった。そんな遺品の持ち主が懐かしく愛おしく思いながら家の時間を振り返る。





林　歩（Ayumi Hayashi)
友人との共同展を機に写真ワークショップに通い始める。主に家をテーマにした作品を制作している。

おもな展示
2023年　Taiwan Photo2023 二人展
2024年　Place　M　個展